

事業名：4 漁場環境監視事業

細事業名：(2)藻場監視調査

期間：H19年度～

予算額：2,846千円（うち国庫630千円）

担当：増殖推進室（西村 美桜）

目的：

沿岸域の藻場の分布状況を監視する。

成果の要約：

1 調査内容

(1) 藻場監視調査

平成30年から令和2年の3年間で県内沿岸域の全17定点を網羅することとし、令和2年は4、5月に青谷2定点、御来屋1定点、淀江2定点の計5定点で調査を行った。各定点に設定した調査ライン上（10m毎）の藻類被度及び周辺環境について潜水目視で観察を行った。記録した藻類被度は被度階級表を用いて5段階に分類し、各定点の被度階級を求めた。その後、過去の調査結果と比較を行った。

2 結果の概要

(1) 藻場監視調査

令和2年調査時の被度階級を平成29年調査時と比較したところ、5定点中1定点（御来屋）は被度階級3から3～4（景観被度50%以上）へ増加、その他の4定点（青谷、淀江）では減少が確認された。減少が確認した要因として、漂砂およびムラサキウニ等による食害の影響が考えられた。増加が確認された御来屋においても、ムラサキウニが確認されており、食害の影響が懸念される。

成果の活用：

以下の会議で発表を行った。

・令和2年度地域における気候変動適応実践セミナー（水産編）

関連資料・報告書：

該当なし